

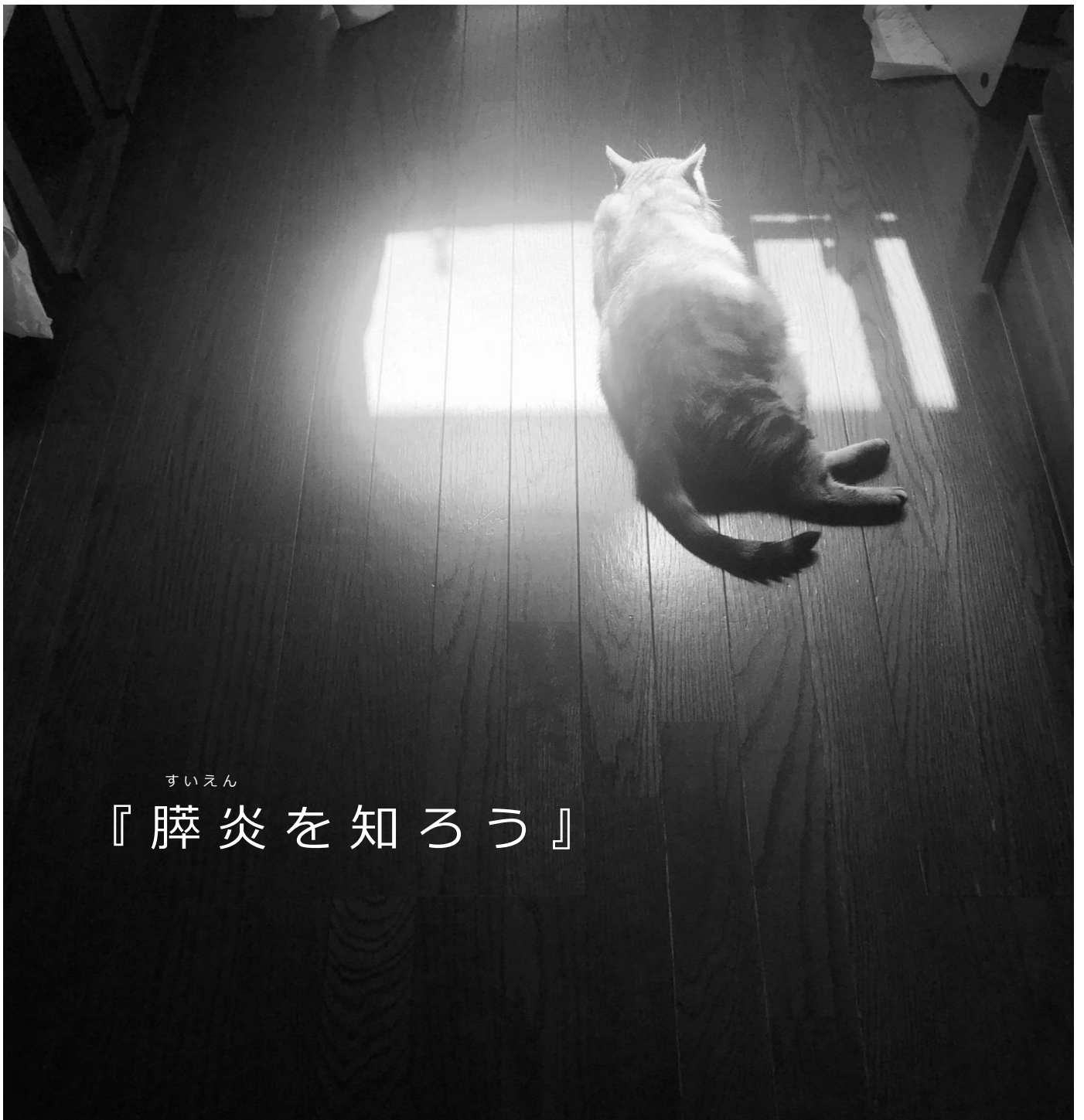
Smile

FREE MAGAZINE

2020 秋号

NO.025

2020.10.1 発行



すいえん

『膀胱炎を知ろう』

TOPICS

NO.025

【特集1】

膀胱炎の基礎知識 ……3

【特集2】

膀胱炎の管理 ……9

【wellness salon cocoe からのお知らせ】

・絆プロジェクト ……15

・ペットの栄養 ……21

～ 膀胱炎のごはん ～

information ……27



すいえん
膝炎の基礎知識



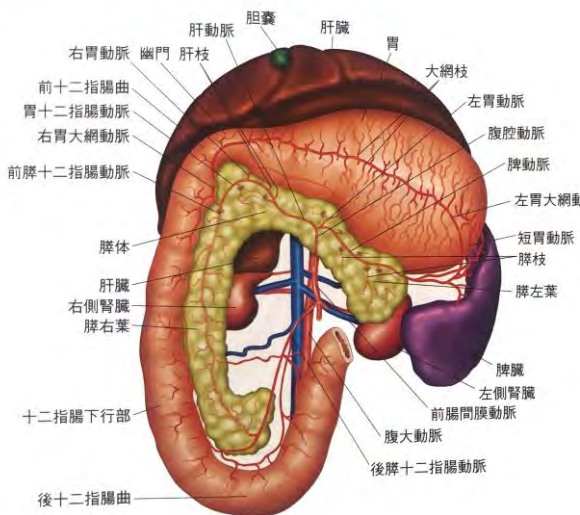
すいぞう

膵臓ってなあに？

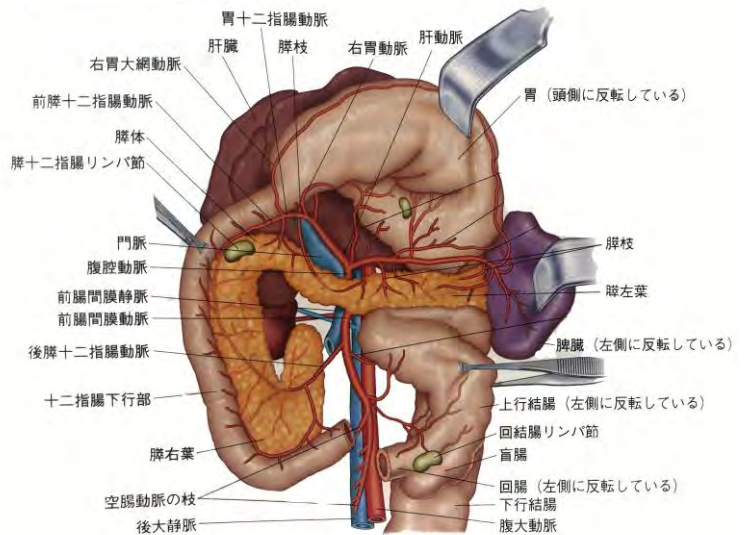
膵臓は胃や十二指腸付近に存在する臓器で、膵体、膵右葉、膵左葉という三つの部位から成ります。

膵右葉は十二指腸に沿って、膵左葉は胃に沿って存在し、その二つのパーツをつなぐ膵体が幽門（胃の出口付近）の近くに位置します。

犬の膵臓と周辺臓器（腹側観）



猫の膵臓と周辺臓器（腹側観）



● 膵臓の役割は大きく2つに分けられます。

- ①膵液という消化液を消化管内に分泌する。（外分泌）
- ②ホルモンの分泌をする。（内分泌）

①膵液という消化液を消化管内に分泌する。

膵液の中には様々な分解酵素が含まれ、糖やたんぱく質、脂肪の分解を助けて消化しやすい形にします。

また、膵液中のイオンによって胃から流れてきた酸性の胃酸を中和する役割も担っています。

②ホルモンの分泌をする。

膵臓には膵島というホルモンを産生する細胞群が存在し、そこからはインスリンやグルカゴン、ソマトスタチンなどのホルモンが分泌されます。

インスリンやグルカゴンは血糖値の調節に関係し、ソマトスタチンは膵島の働きを調節する役割を持っています。

今回は外分泌器官、つまり **消化液の分泌をする臓器としての膵臓の病気に関して** ご紹介していきます。

きゅうせいすいえん

急性膵炎

病態

膵炎は消化器症状を呈する犬では一般的な病気です。
以前は猫ではまれな病態と考えられていましたが、検査の発展により診断される機会が増えてきています。

膵炎は代表的な膵臓の病気ですが、

急性膵炎 と **慢性膵炎** に分けられます。

急性膵炎とは、膵炎の中でも不可逆的（※）な

膵臓の組織の変化を伴わないものを指します。

何らかの原因で消化酵素が活性化してしまい、膵臓の自己消化が起こることで炎症が引き起こされます。

それにより消化酵素が漏れ出てしまい膵臓周囲の臓器に障害を与えてしまったり、膵臓の働きである消化管への酵素分泌が障害されてしまったりします。

このような病態を引き起こす明確な原因はわかっていませんが、膵炎を引き起こしやすくする因子はいくつか挙げられます。

- ・中高齢
- ・避妊去勢
- ・高脂肪食
- ・肥満
- ・高脂血症
- ・胃腸炎、胆道系疾患
- ・薬剤
- ・外傷、麻酔、手術後

※不可逆的…再び、もとの状態にもどれないこと

症状

重症度は対症療法を行って数日で治るものから、致命的なものまで様々です。

一般的な症状としては

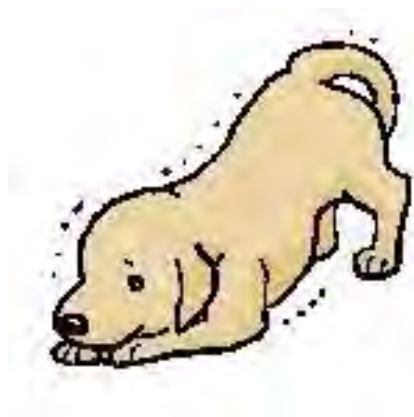
食欲不振や活動性の低下、嘔吐、

下痢、腹痛

などが挙げられます。

稀に腹痛から「祈りのポーズ」をとる犬がみられます。

（伏せの状態からお尻を持ち上げたような姿勢）



診断

血液検査 や 画像検査 などにより総合的に診断されます。

- **血液検査**では一般的に炎症による白血球数の増加や、犬ではCRP（急性炎症で上昇する値）の上昇が認められますが、脾炎に特異的な所見ではありません。
信頼性の高い脾炎の検査として**脾特異的リパーゼ (snap-cPL/fPL、spec-cPL/fPL)** が挙げられます。
ただし、様々な要因に影響を受けて二次的に高値になることが知られており、検査結果の解釈に注意が必要です。

Spec-cPLが上昇する要因

- ・ 高脂血症
- ・ 僧帽弁疾患
- ・ 副腎皮質機能亢進症
- ・ 薬剤（フェノバルビタールや臭化カリウム、L-アスパラギナーゼ、アザチオプリン、ステロイドなど）

- **画像検査**では主に腹部超音波検査が行われます。
エコー画像上脾臓が黒っぽく腫大している様子や周囲の脂肪組織が白っぽく映る様子が認められることがあります。

治療

輸液 や 制吐、鎮痛、栄養管理、抗炎症治療 が主体になります。

他の病気から二次的に引き起こされている場合は、その病気の治療も脾炎の治療につながります。
症状の重症度によって治療の強化の度合いも変わってくるため、
動物の状態や検査結果に合わせて治療内容について相談していきましょう。

まんせいすいえん

慢性膵炎

病態

慢性膵炎とは、 組織の線維化や委縮など、膵臓の不可逆的な変化を伴う膵炎を指します。

慢性膵炎も明確な原因は不明ですが、中には遺伝的な要因や自己免疫疾患に関与する可能性が示唆されるものもあります。猫では急性膵炎よりも慢性膵炎のほうがより一般的であることが多いと考えられています。また、進行した慢性膵炎の動物では膵外分泌不全や糖尿病を併発することがあります。

症状

間欠的（※）で軽度の消化器症状を呈することが多く、食欲不振や間欠的な嘔吐、食後の腹痛などが認められます。急性期（症状が重く出てしまう期間）の場合は急性膵炎の症状と見分けがつかないことも多いです。慢性膵炎の進行により膵外分泌不全や糖尿病を併発すると、それらに関連した症状がみられます。

※間欠的…一定の時間をおいて、起ったり止んだりする様

診断

病歴や症状、各種検査から総合的に判断されます。急性膵炎と同様に膵特異的リパーゼが有効ですが、急性膵炎と比較すると感度は低いです。腹部超音波検査では急性膵炎と同様の所見が認められることもありますが、膵臓が線維化により白っぽくみえることもあります。

治療

急性膵炎と同様に支持療法が中心です。

食事は**低脂肪食**が推奨されます。

膵外分泌不全

病態

膵外分泌不全は一般的に猫よりも犬で多い病気です。

膵臓において膵腺房細胞は消化酵素を分泌します。この膵腺房細胞の委縮や破壊により、消化酵素の分泌能力を90%以上失うと消化不良の症状が出現します。

若い動物での原因としては特発性（原因不明であること）の膵腺房細胞の委縮や、自己免疫疾患（自分の細胞に対して免疫が働くこと）による膵腺房細胞の破壊が挙げられます。中高齢動物での原因は腫瘍や膵炎による膵腺房細胞の破壊が多いと考えられます。

症状

一般的な症状としては体重減少や慢性的な下痢です。消化不良により食欲亢進状態で異食や食糞をしたり、被毛も粗剛であったりします。また、白黄色で酸性臭の脂肪便によりお尻が汚れていることもあります。

小腸内の細菌の過剰増殖や、コバラミン欠乏症を起こすこともあります。

診断

血液検査では消化不良によりアルブミンやグロブリンといったタンパク質の値、コレステロールやトリグリセリドなどの脂質の値に異常を認めることがあります。これらは非特異的な所見であるため、これだけで診断することはできません。

膵外分泌不全の診断に最も有効といわれている項目として血清のトリプシン様免疫活性（TLI）という項目が挙げられます。また、血清コバラミン濃度や血清葉酸濃度という項目を測定することもあります。

治療

膵酵素の補充や低脂肪食での食餌管理が中心になります。

これらの治療に反応がある場合は、この治療を継続することで天寿を全うできることが可能であるといわれます。

小腸内細菌過剰増殖を起こしている場合には抗菌薬を投与することもあります。

また、コバラミン欠乏を起こしている場合には静脈内投与や皮下投与でコバラミンを補充することが必要になります。

症状の項目でも記載した通り、慢性的な下痢は特徴的な症状の一つで白黄色の脂肪便を呈することが多いです。糞便検査では特殊な染色をすることで脂肪が多く含まれていることを確認することもできます。しかし、偽陰性や偽陽性も多いので結果の解釈に注意が必要です。

膝炎の管理



食事の管理

膵炎と診断されたら・・・

嘔吐のある動物にはまず、24～48時間の絶食・絶水をさせ、その後少量の水を数回に分けて与えます。冷たい水は避け、常温～ぬるま湯にしましょう。

お水を飲んでも嘔吐が生じずに、経口摂取を受け入れるようになったら、少量からご飯を開始します。

まずは1週間から10日間は胃腸疾患用のフードを与えることが望ましいでしょう。

胃腸疾患用のフードは、消化吸収率が高く、脂肪の含有量は中程度～低脂肪に設定されているものが多いので膵炎にも適しています。

膵炎では、低脂肪のものが推奨されますが、オメガ-3系の脂肪酸は腸粘膜の炎症抑制に効果がある可能性があるといわれているので、添加されているものを選ぶと良いです。

タンパク質も過剰量は消化酵素酸性を刺激するので避けましょう。

さらに、嘔吐や下痢によって電解質も失われているので、ナトリウム、塩素、カリウムなどのミネラルは最小要求量以上を含んでいる必要があります。



豆知識①

ドライフードとウェットフード

できる限り消化の良いものを食べさせたいときには、

ドライフードとウェットフードはどちらを選んだら良いのでしょうか？

胃腸疾患用のフードにも、ドライとウェット両方の商品があります。

水分を多く含んでいるので、ウェットフードの方が消化に良いと感じるかもしれませんが、

ドライフードがウェットフードよりも消化が悪いということは基本的にありません。

ドライフードの原材料のうち、大きな割合を占めているものが穀類（炭水化物）です。

人とちがいで、犬や猫には唾液中にアミラーゼがないので、口の中で炭水化物の消化ができません。

腸において膵アミラーゼという酵素ではじめてブドウ糖に分解して利用します。

つまり、犬や猫は炭水化物の利用が得意ではないのです。

そこで、炭水化物が不可欠であるドライフードでは

エクストルージョンという製造工程によって炭水化物を加水加熱し、消化しやすくしています。

これにより、加工された炭水化物は小腸でほぼ完全に消化されるようになります。

エクストルージョンとは、ドライフードの殺菌、膨化だけでなく、炭水化物の消化率向上の役目も果たしている大事な工程になります。

一方、ウェットフードの場合には原材料の種類や加工法によって消化率が様々に変化します。

そのため、メーカーや商品によっては、ウェットフードの方が消化がしにくい場合もあります。

実際に、普段ドライフードを食べている子がウェットフードを食べると、

便が緩くなることもあります。

決してウェットフードを食べさせてはいけないわけではありません。

ウェットフードはドライフードよりも嗜好性が高い場合が多いので、

動物の好みや症状に合わせてドライフードとウェットフードを取り入れていきましょう。



給与方法（与え方）

フードの準備ができたなら、次は給与方法です。

始めは、ドライフードをふやかして

柔らかくしたものを与えましょう。

3～4日かけて給与量を少量からその動物にとって必要なエネルギー要求量まで徐々に増やしていき、給与回数を1日2～3回に減らしていきます。

例えば、

1日目：1日に必要なエネルギー要求量の1/4量を4回に分けて与える

2日目：1日に必要なエネルギー要求量の1/2量を4回に分けて与える

3日目：1日に必要なエネルギー要求量を4回に分けて与える

4日目：3回に分けて与える

5日目：2回に分けて与える

その経過中に再度嘔吐がみられた場合は給与を中止し、数時間開けてから再開します。

それでも嘔吐が続くようであれば、制吐薬を用いる必要があります。

重度の肺炎では、3日以上絶食が必要となることもあるため、経腸栄養法や経静脈栄養補給法を行う場合があります。

ただし、近年では絶食が長引くほど消化管の動きは止まり、回復を遅らせるため少しの嘔吐であれば少量でも経口摂取を試みる必要があります。

肺炎の症状が落ち着いてきたら、徐々に普段食べているフードに戻してきましょう。

フードの切り替え後も始めはふやかしから、徐々にドライフードにしていくとより安心です。



給与方法（食べないときの工夫）

食欲不振の動物には、フードを少し温めてあげましょう。

（吐き気がある場合はにおいが吐き気を促してしまう場合があります）
温度は嗅覚と口当たりに影響し、犬も猫も体温に近い温度の食物を好みます。ただし、温めることで細菌が繁殖しやすくなるので、特に夏場は食べ残しの放置に注意してください。

フードのみで食べない場合は、ささみの茹で汁を入れてみたり、ささみを細かくしてフードに混ぜても良いでしょう。匂いを付けるだけでも効果があります。

それでも食べないときは

動物は気分の悪い時に与えられた食物を嫌いになる傾向があります。肺炎だからといって、無理に療法食を食べさせることはときに困難です。これなら食べてくれるから・・・と、ジャーキーやチーズなどの消化に悪いものを与えることも体にとってはよくありません。

状態が悪い時には、無理な経口摂取は避けて、動物病院を受診しましょう。





自宅での注意点

品質の悪い食物、高脂肪食、急激な食物の変化、過食などによって消化不良をおこす場合があります。

また、生ゴミを漁ることで汚染・腐敗した食物の摂取につながり、消化不良の危険性が高まります。

さらに怖いことに、

わんちゃんねこちゃんが口にしたものによっては、消化管閉塞を起こしたり、

中毒症状を引き起こし生命を脅かすこともあります。

わんちゃんねこちゃんが好きそうな匂いの強いものを捨てる時は、しっかりと袋に入れて!!

ゴミ箱を漁られないように特に注意してください。

豆知識②

小腸粘膜は多数のヒダからなり、そのうえに高さ1mmほどの絨毛が密生。

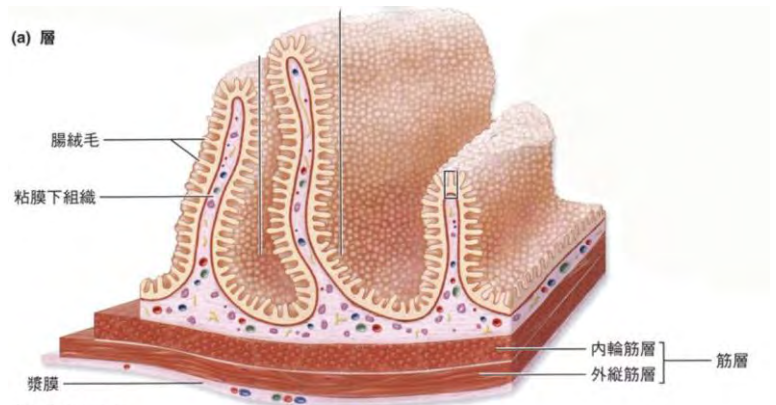
さらにその表面を微絨毛が覆って刷子縁を形成し、吸収面積を広げています。

不健康な消化管では、腸絨毛が消失し吸収不良を起こします。

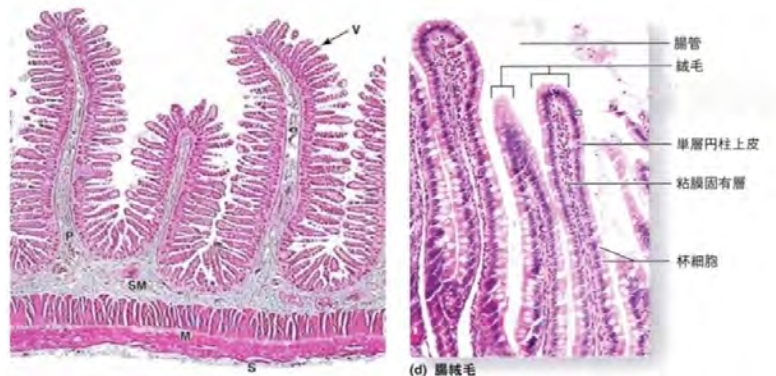
絶食をすることで消化管を休ませ、回復を促します。

しかし、腸絨毛の回復は栄養を吸収して行われているので、長い絶食はターンオーバーの期間も伸ばしてしまいます。

そのため、嘔吐が止まったら口からご飯を入れないと、腸絨毛は回復もできなくなります。



(b) 小腸の断片



(d) 腸絨毛

下痢のケア

膀胱炎の下痢は小腸性の下痢なので、
糞便量・糞便回数が増加し、
軟便や水様性便になることが特徴です。
そのため、頻回な下痢に悩まされるご家族様も多いと思います。



下痢が頻回であったり、自宅を留守にして動物をお留守番させる間など、
ケアが難しい場合はオムツの着用も検討してみましょう。
帰ってきたら部屋中便まみれ。。なんて悲惨な状況は防ぐことができます。
ただし、オムツは水分は吸収しますが便は吸収しないので、長時間のオムツのつけっぱなしには注意が必要です。
かえって不衛生な環境にしてしまう場合があります。
できるだけオムツの中を頻繁に確認し、便で汚れた部分をきれいに拭き取る、もしくは清潔に洗いましょう。

お尻周りの毛刈りをするもお勧めです。
毛に便が附着することで不衛生な環境を作ってしまうので、毛がなければ拭き取りもしやすく、より清潔な状態を維持することができます。
また、皮膚の状態も把握しやすいので、皮膚の赤みやタダレに気づきやすくなります。
お尻の赤みがひどい時は、薬局に売っている白色ワセリンなどを塗ってあげるのがおすすめです。
水分をはじいてくれるので、下痢から皮膚を保護してくれます。
ワセリンを塗った後で、ベビーパウダーをポンポンとのせてあげればサラサラになります♪

自宅での様子の変化にも注意

重度の膀胱炎では、1週間以上の長期入院が必要になる場合もあります。
普段から、少しの体調変化にもすぐに気づけるようにしましょう。
いつもに比べて元気がない、あまり動きたがらない、
ご飯の食いつきが悪い、残しているなどの元気食欲の変化は分かりやすいですが、行動の変化にも注意しましょう。
例えば、頭を低く下げて、前肢の肘を床につけて体を弓なりにしてお尻を高くあげる「お祈りポーズ」と呼ばれる姿勢を腹痛の際などにとることがあります。
お腹が張っている、お腹周辺を触ると嫌がるなどの反応も、何か異変のサインの可能性があります。

入院をしても、環境が変わるとご飯を全く食べないなどのナイーブな子は、通院治療の相談をすることもあります。
その子の状態や性格に合わせた治療を相談していきましょう。
悲しいことに、膀胱炎は再発する可能性が高い病気です。
一度膀胱炎を経験した子では特に、普段からの食事管理に気をつけましょう。
低脂肪食に関しては、1歳未満の成長期の子や、妊娠・授乳中のエネルギー要求量が高い時期では
長期給与は推奨されていませんので注意が必要です。
いずれにしても、自己判断で与えずに動物病院に相談してくださいね。



動物のエネルギー要求量を求めてみよう

動物のエネルギー要求量を求めてみましょう。

動物のエネルギー要求量には、個体差があります。年齢や環境、活動レベルによっても差があるため、食物摂取量に大きな差が生じることになります。また、体重ではなく体表面積に比例します。同じ体重の動物が同じ食物摂取量であるとは限りません。

わんちゃんとねこちゃんでも違います。

安静時エネルギー要求量 (RER)

健康な動物が中程度の気温環境で、摂食はしているものの非活動状態（静止状態）にある時のエネルギー要求量のことを言います。

消化・吸収、代謝、運動からの回復に必要なエネルギーを含みます。

RER の計算方法には主に2つあります。

$$30 \times \text{体重kg} + 70 \text{ kcal/日}$$

$$70 \times (\text{体重kg})^{0.75} \text{ kcal/日}$$

電卓で計算する場合、「 $\text{体重} \times \text{体重} \times \text{体重} = \sqrt{\cdot} \times 70$ 」で計算してみてください。

1日当たりのエネルギー要求量 (DER)

動物の活動状態、ライフステージ、整理状態、環境などに応じた1日に必要なエネルギー量のことを言います。

DERの計算方法には、先程のRERを用います。

RER×活動係数 kcal/日

この活動係数は、ライフステージなどによってそれぞれ異なります。

〈活動係数〉	犬のDER	猫のDER
4ヶ月齢未満	3.0×RER	3.0×RER
4～9ヶ月齢	2.5×RER	2.5×RER
10～12ヶ月齢	2.0×RER	2.0×RER
避妊・去勢していない	1.8×RER	1.4×RER
避妊・去勢済みの	1.6×RER	1.2×RER
肥満傾向	1.4×RER	1.0×RER
高齢	1.4×RER	1.1×RER
妊娠中	2～3×RER	2.0×RER
授乳中	4～8×RER	2～6×RER

是非、わんちゃんねこちゃんの日当たりに必要なエネルギー要求量 (DER) を計算してみてください。

そして、普段あげているフード量が適切かどうか確認してみましょう。

計算には、体重やライフステージだけでなく、動物の肋骨や腰・腹部の皮下脂肪のつき具合を視診と触診によって評価する「ボディコンディションスコア (BCS)」も必要になります。

わんちゃんやねこちゃんが理想の体型、体重であるかどうかを確認しましょう。

痩せすぎたり太りすぎている場合は、理想の体重で計算をする必要があります。



美しく健康で

長生きするために

絆プロジェクトとは

“動物が健康で美しく長生きするためにできること”をテーマに、動物とご家族が楽しく快適に過ごせますように、獣医師、動物看護師、トリマー、受付、コンシェルジュそれぞれの立場からご家族向けのセミナーや、動物と暮らすことの幸せを改めて感じてもらえるようなイベントを開催していくプロジェクトです。

動物病院は病気やケガを治すためだけでなく、健康であり続けるためのお手伝いする存在でもあります。多くの方にとって動物病院に足を運ぶのが楽しいと思っただけですと幸いです。

皆さまがどのような悩みを持たれているか、また同じ悩みを持つご家族さま同士が悩みを解決するためにコミュニケーションを取れるような場を作りたいと思っております。

我が家の動物との“家族の絆”

エピソードをお聞かせ下さい。

健康を維持するために、日頃から気を付けていることや、お悩みやお困りごとなどのお声をこちらのメールまでお送り下さい。

皆さまの多くのお声を元に、イベントやセミナーを企画して参ります。

kizuna@jamc.co.jp

～ 絆プロジェクト 第11回 活動報告 ～

JAMCうさぎチームイベント

「うさぎさん大集合！ もふもふ写真展」

5月開催

うさぎチームとして第2回目となる今回のイベントでは緊張屋さんな子が多いうさぎさんのだらけた姿やリラックスした姿が見たいという気持ちから企画がスタートしました。

写真を展示するなら、いつも来てくれているうさぎさん達に感謝の気持ちも伝えたい！
個別でメッセージも送りたい！そして8歳以上のシニアな子達に長寿の表彰状を渡してあげたい！
というなんとも欲張りな案がたくさん出た結果、
全部やっちゃおうということで

「うさぎさん大集合！モフモフ写真展」が始まりました。

JAMCのHP内で
開催しました！



JAMC初のwebイベントでしたが、外出自粛を余儀なくされる中での開催だったこともあり自宅でも見られるイベントとしてとても好評いただきました。



うさぎ写真展はこちらから

たくさんのご家族様に応募いただきましたが、年齢も様々でなんと2ヶ月齢から12歳までと幅広く参加してもらうことができました！
最近のご長寿なうさぎさんがふえてきましたね。

今回のイベントでは8歳以上のうさぎさんに表彰状を贈らせていただきましたが計14羽のご長寿さんたちが参加してくださいました…！

7歳以下の子も沢山いて、来年は誰が表彰かな～と嬉しく思いながら企画を進めることができました。

ご参加頂いたご家族さまのお声



このような時期に、素晴らしい企画を開催していただき、本当にありがとうございました。最高に楽しませて頂きました。各ご家族のウサギさん達を、楽しく拝見し、幸せなウサギさん達を見て嬉しくなりました。先生方、看護師さん、全てのスタッフの方々の安全を願っています。また、全ての動物が幸せであるように願っています。



色んな可愛いうさぎさんの姿を見てとても癒されました！企画頂き有難うございました！



素敵なページで紹介して頂きありがとうございました！コメントも感動しました。とても嬉しいです。家族ともワイワイ楽しい時間が過ごせました。

飼い主さんそれぞれの思いが溢れたメッセージと、病院スタッフさん達の心温まるメッセージに、涙が溢れて止まりませんでした。
今回皆さんの写真やメッセージを読んで、私もまだまだ頑張らなきゃ！って思い返す事が出来ました。長い道のりですが、一緒に頑張って行こうと思います。ありがとうございました！



スタッフさんの愛のこもったコメントに感謝しています。ありがとうございました！
院内だと見に行くチャンスが無い可能性がありますので、Web開催はありがたいです。



表彰状をもらえたことで、うちの子をととても誇らしく感じましたし、他のうさちゃんたちの可愛い姿や、飼い主さんとの関係も想像できたりしてとてもほっこりしました。スタッフからのメッセージも嬉しかったです。笑顔になりました！素敵な企画をありがとうございました！！



この度は素敵な企画へお誘い頂きまして誠にありがとうございました！家族全員でとても楽しめました。病院でお見かけた事のある他のウサギさん達の元気なお顔が見れた事も嬉しかったです！またこの様な機会がありましたら是非参加したいです。



長生きさんがたくさんいて、とっても勇気づけられました。ありがとうございました(^^)

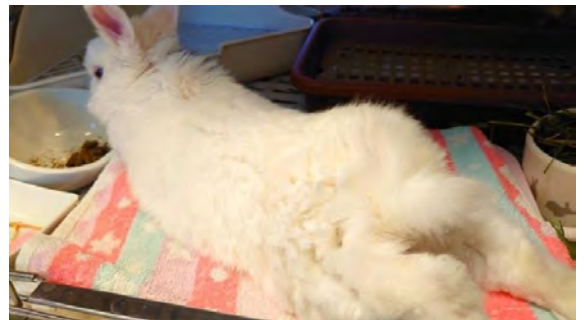
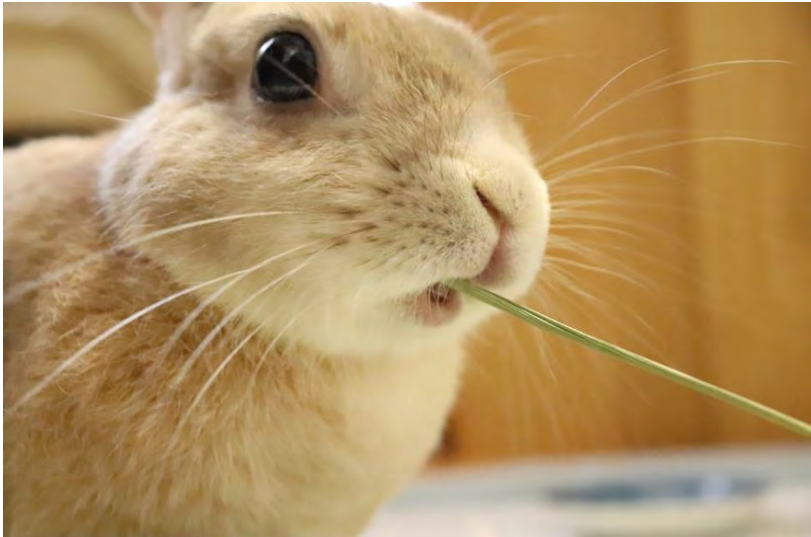


スタッフのみなさまのうさぎさん愛が溢れてて、思わずうるっときました。こんなに素敵な企画に参加していただき、とても感謝しております。表彰状 記念になりました。お忙しいかと思いますが、今後も継続していただけたら嬉しいです。



写真展を見てくださったご家族様たちからたくさんの嬉しい感想を頂くことができうさぎチーム一同感謝しております。
今後もJAMCに来院するすべてのうさぎさんとそのご家族様に安心を提供できるようにうさぎチームを筆頭に尽力してまいります。

たくさんのご応募ありがとうございました♪



う
さ
ぎ
写
真
展







消化管の病気でよくみられる症状は「嘔吐」「下痢」「便秘」「食欲不振」です。これらの症状を緩和、改善するためには以下のポイントで病態の回復をサポートします。

- 『①消化管の「仕事量」を軽減 ②十分なエネルギーの供給 ③消化管の回復をサポート ④不足する栄養素の補充 ⑤炎症の軽減』です。それぞれの項目を詳しく見ていきましょう！

① 消化管の「仕事量」の軽減

簡単にまとめると

「消化に良い食事」のこと。

消化に良い→消化管の仕事の軽減

につながります。

下の図にわかりやすくまとめてみました。

(記載の食品は代表的なものです)

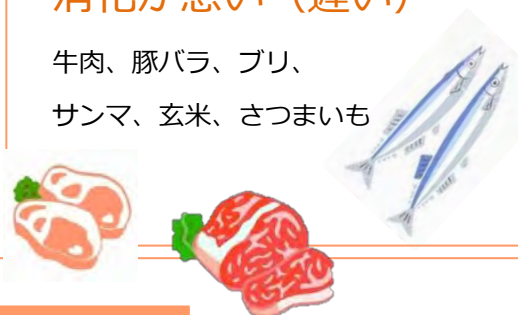
消化が良い (早い)

鶏むね肉、鶏ささみ、
鯛、鱈、カレー、白米、じゃがいも



消化が悪い (遅い)

牛肉、豚バラ、ブリ、
サンマ、玄米、さつまいも

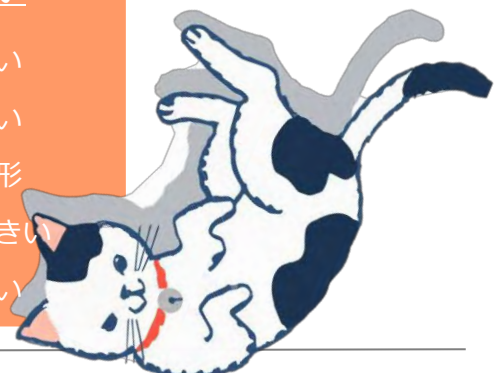


消化が良い

脂肪	低い
食物繊維	少ない
形状	液状>ペースト>粥状
大きさ	小さい
硬さ	柔らかい

消化が悪い

高い
多い
固形
大きい
硬い



② 十分な エネルギーの供給



前ページに従い食事の形状を消化の良いものにする
一方で食事全体の見た目の量が増えるため
エネルギー不足になっている
場合があります。

食欲不振であまり食事を受け付けられない子では尚の事です。
エネルギー不足は体力の回復や
組織の修復が遅れる原因になるので
十分なエネルギーが得られるように注意が必要です。

③ 消化管の 回復をサポート

ここで消化管の消化以外の役割の一つとして
「免疫機能」の働きを担っていることを
知っておきましょう。

免疫機能とは

様々な菌や細菌が口を經由して身体に侵入してきた際に
最初のバリアとなるのは腸管です。

腸の粘膜には多数のリンパ球などの免疫細胞が存在し
これらの抗原が体内に入ることを防いでいます。
また、よく耳にする腸内細菌叢（腸内フローラ）も
腸内免疫系に関与しています。



④

不足する
栄養素の補充

「下痢」「嘔吐」で
ビタミンB群 や **カリウム** などが
体外に排出されてしまいます。
これらの不足が生じないように補いましょう。



ビタミンB群

ビタミンB群は水溶性ビタミンで栄養の代謝に関与する補酵素で
その不足は代謝障害を引き起こします。
余分な水溶性ビタミンは尿中から排出されるので過剰が生じるのは稀です。
これらは腸内細菌叢で体内合成可能なため不足は稀ですが、
抗菌剤などの長期服用で不足することがあります。

(主な供給源)

- ビタミンB1 : 豚肉 大豆
- ビタミンB2 : レバー 乳製品
- ビタミンB6 : レバー 肉類 卵 イワシ
- ビタミンB12 : 肉類 乳製品 酵母

カリウム

多量ミネラルに分類され、
その中でもカリウムは
細胞内液の浸透圧の調整、
心筋や筋肉の機能調整を
担っています。

(主な供給源)

- 果実類 芋類 豆類
- 肉類 魚類

n-3系脂肪酸が
炎症の軽減 に働きます。

⑤ 炎症の軽減

n-3系脂肪酸

(抗炎症作用)

n-3系脂肪酸 : α-リノレン酸、
EPA (エイコサペタエン酸)、
DHA (ドコサヘキサエン酸)

(主な供給源)

植物油 (亜麻仁油)、魚類 (とくに青魚)

○膵臓の病気で使用する療法食



基本的には**低脂肪の消化器用のご飯**を選択しますが、下痢や嘔吐は食物アレルギーや食物不耐性が関与していることのある為食物有害反応や皮膚病用のご飯を選択する場合があります。

〈療法食〉

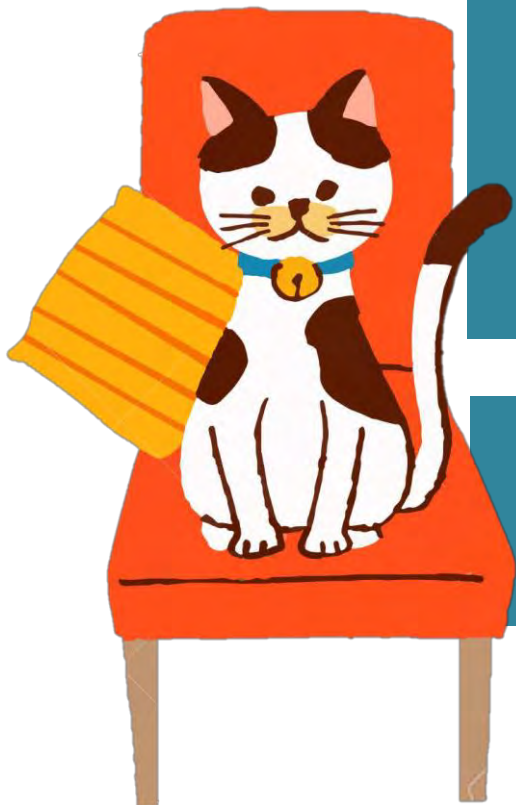
消化器疾患用

〈栄養特性〉

- ・ 低脂肪
- ・ 高消化性
- ・ 中程度の混合性食物繊維（※）
※不溶性食物繊維と水溶性食物繊維との混合
- ・ ビタミンB群とカリウムの増強

〈注意点〉

現在食物アレルギーが有る場合は、アレルゲンの食品がないか確認



○与え方のポイント

その① 少量頻回

その② ドライフードのふやかし、ウェットフードで水分補給

その③ 膵炎からの回復時には、より慎重に

それでは、各項目について詳しくみていきましょう！

① 少量頻回



一日分の食事を等分にし、
回数を多くして与える方法のことを言います。

1食ごとの消化管の仕事量が減るため、
消化・吸収のサポートが出来ます。

② ドライフードのふやかし ウェットフードで水分補給

下痢や嘔吐により損失した水分を補う目的があります。

経口摂取が可能なときは温めることで趣向性が向上するのが一般的ですが

膵炎においては、強いニオイが消化酵素の分泌を促し、嘔吐を誘発させるので避けなければなりません。

動物は「食べたもの」と「不快な経験」が繋がるとそのフードを食べなくなることがあります。

ゆえにこの場合はドライフードのまま、水でふやかし、ニオイの弱い手作り食で

嘔吐を誘発せずに食べられる形状から始め、食べることに對する嫌悪感が生じることを防ぎましょう。

③

膵炎からの回復期には より慎重に

膵炎の多くは水を飲むことも嘔吐を誘発するため

半日～1日は点滴のみで「絶食絶水」が必要になる場合があります。

(猫においては例外があります)

膵臓の分泌は栄養素の接触でも特に脂肪とアミノ酸が十二指腸に到達することに反応して生じます。

ゆえに経口的な接触の制限や栄養素の静脈内供給、経腸的な栄養供給は膵臓の分泌を刺激することがないため膵臓を休めることができます。

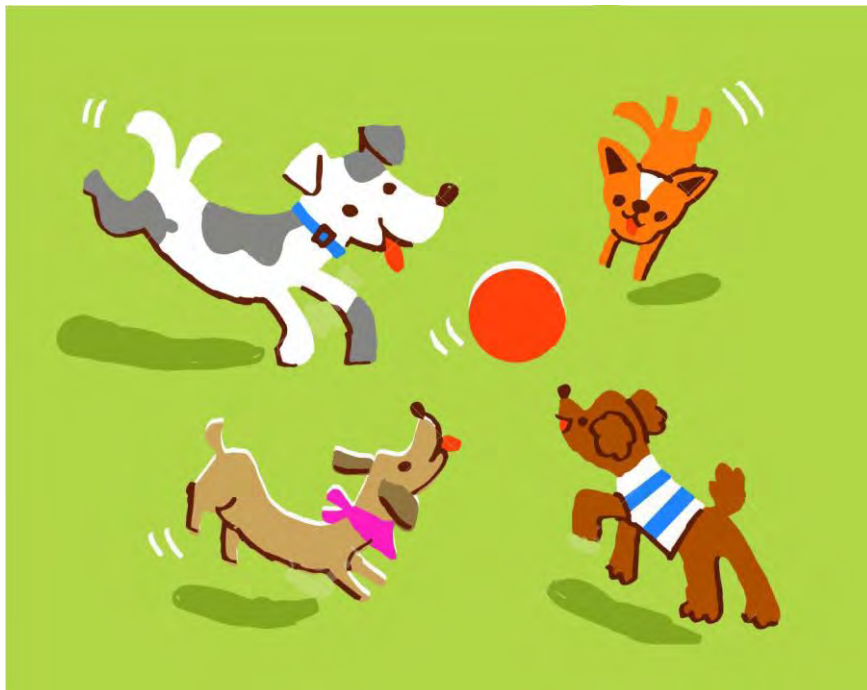
そして下痢や嘔吐、腹痛を伴う症状が出るため、基本的に入院での管理が一般的です。

口から摂取できるようになった時は、水から少しづつ何回かに分けて与え、

嘔吐しないかを確認します。

その後は消化の良い超低脂肪の食事を少量から与えていきます。

回復後も脂肪が多い食事は与えないように注意が必要です。



トリマー

【1期生紹介】藤井千晶さん

食事の知識で、寄り添えるトリマーに



食事の知識で、動物に寄り添えるサポートを

今後は、「美しく健康に」という「ウェルネスサロンcocoe」のコンセプトのもとに、ペットフードリストで学んだことを活かし、動物に寄り添ったサポートをしていきたいと思っています。

トリマーとして提供できる「見た目の美しさ」だけでなく、栄養面からもアプローチしていき、ご家族様に「食事のことなら藤井さんに相談したい」と頼ってもらえるようなスタッフになれたら嬉しいです。

受講のきっかけは、飼い主様からの「食事」の質問の嵐

私は今、日本動物医療センターに併設する「ウェルネスサロンcocoe」のスタッフとして、入社して2年、トリミング業務を中心にしています。加えて、「健康で美しく」というウェルネスの観点から施術前に皮膚のモニタリングを行い、その時の皮膚の状態にあったシャンプーの提案をしています。よりよい提案ができるように、皮膚科専門獣医師からセミナーを受け「美容皮膚科」の勉強をしています。

また、月に2日、猫ちゃんだけ集まる「ニャンダフルデー」があり、専門学校の猫トリミングコースを卒業した経験を活かして、猫に優しい施術を行っています。トリミング中にしこりや皮膚の異常を発見した場合は、獣医師と連携することで、病気の早期発見に努めております。

そんな仕事の中で、ご家族様からよく「食事」についての質問や相談をいただきます。例えば、「与えているご飯に飽きて、食わなくなってしまった」、「普段のご飯に何かトッピングをしてあげたいが、どんなものが良いか」「なかなか体重が減らないが、どうすればよいか」などとても身近な疑問ばかりです。

学生時代に多少勉強してはいたのですが、そんなご家族様の相談にしっかりと自信もってお答えすることができず、やきもきする毎日でした。

ご家族様の悩みに対して私も力になりたいと思っていた時に、副院長からペットフードリストという資格を紹介して頂き、是非受講したいと志願させて頂きました。

動物病院に必要とされる「食事の専門家」

「食」は生きていくための基本だと考えています。

従来の動物病院は「病気の動物を診断・治療する場所」という認識のもと、具合が悪くなって初めて出向く場所でありました。

既に病気になった動物のご家族様を前に「療法食」の説明をするだけでなく、未病の時期から「美しく健康で居続ける」ためのアドバイスができればと日々熱い想いがあり、今回ペットフードリストの受講に至りました。

加えて、昨今飼い主様の「食」に対する意識も格段に上がってきているのを感じます。様々な情報が溢れている中で、飼い主様が正しい知識を持ち「食事を考える力」を養うパートナーが必要です。

フードに正解はなく、薬の様にすぐに出るものではありません。

だからこそ「ペットフードリスト」の資格を取得したスタッフを通じて、飼い主様と「食」を通じたコミュニケーションを長期的に継続し、生涯にわたる「健康」のサポートができたと思います。

動物の「ウェルネス」を身近なものに。

私たちはご家族様と「美しく健康でいられる喜び」を共有していきたいと考えています。

診療時間のご案内

受付	9:00-13:00			14:00-16:00			16:00-20:00		
	通常診療	○			/			○	
予約診療	○			○			○		

水曜日は午前診療のみ
 入院中の面会・相談・容態の問い合わせ ……………14:00 - 17:00

- 救急診療 24時間受付しております

救急診療のご案内



当院では、常に獣医師と看護師が常勤しており、夜間の緊急時の診療も対応しています。

また、必要に応じて緊急手術や手術後の入院の受け入れも行っています。

- 来院時に迅速な対応ができるよう、お電話で症状をお知らせください。
 (飼い主様と動物のお名前、動物種、年齢、性別、来院時間も併せてお聞かせください。)
- お問い合わせが集中しているときなど電話がつながりにくい場合があります。
 お手数ですが、しばらくたってからおかけ直してください。
- 緊急性や重症度の高い動物の対応を優先していますので、状態に応じて順番が前後してしまうことや待ち時間が長時間になることもありますのでご了承ください。
- 緊急時にはお預かりして、救命処置を進めさせていただくことがございます。

+

来院時に必要なもの



+

お支払に関して

各種クレジットカードまたは現金でのお支払対応も可能です。時間帯により、別途時間外料金が発生します。

+

動物健康保険に加入の場合

夜間診療時は、保険窓口清算対応しておりません。

飼い主様ご自身でのお手続きをお願いいたします。

当院へのアクセス

電車：京王新線『幡ヶ谷』北口をでて徒歩8分

バス：京王バス45番【新宿西口～中野駅】乗車

『本町一丁目』下車

車：首都高速4号新宿線 『初台』もしくは『幡ヶ谷』出口

